

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年3月11日(2010.3.11)

【公表番号】特表2009-529355(P2009-529355A)

【公表日】平成21年8月20日(2009.8.20)

【年通号数】公開・登録公報2009-033

【出願番号】特願2008-554908(P2008-554908)

【国際特許分類】

A 6 1 M 31/00 (2006.01)

A 6 1 L 31/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 31/00

A 6 1 L 31/00 T

A 6 1 L 31/00 P

A 6 1 L 31/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月19日(2010.1.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

体腔内に挿入される器具において、

(a) 肛門管に挿入可能な細長い形状のフレキシブルなチューブと、

(b) 前記チューブ内に配置される除去可能なコア要素と、

(c) 前記器具を前記体腔内に保持する保持機構と、

を有する

ことを特徴とする体腔へ挿入される器具。

【請求項 2】

前記器具は、非吸収性である

ことを特徴とする請求項 1 記載の器具。

【請求項 3】

前記器具は、吸収性材料層を有する

ことを特徴とする請求項 1 記載の器具。

【請求項 4】

前記器具は、活性剤を有する

ことを特徴とする請求項 1 記載の器具。

【請求項 5】

前記活性薬剤は、(a.) 鎮痛剤、(b) 駆虫剤、(c) 抗菌剤、(d) 抗ウイルス剤、(e) 抗原生動物剤、(f) 止瀉剤、(g) 痔の治療剤、(h) 止血剤、(i) 抗炎症剤、(j) 診断器具、(k) 脱毛剤、(l) 消毒剤、(m) 抗真菌剤、(n) アルキル化剤、(o) 筋弛緩剤、(p) 制酸剤、(q) 鎮静剤、(r) ムコ多糖類加水分解酵素、(s) 対比薬剤、(t) 解毒剤、(u) 代謝 / 内分泌薬剤、(v) 抗ガン剤からなるグループから選択される

ことを特徴とする請求項 4 記載の器具。

【請求項 6】

前記チューブは、非透水性である
ことを特徴とする請求項 1 - 5 のいずれかに記載の器具。

【請求項 7】

前記チューブは、半透水性である
ことを特徴とする請求項 1 - 6 のいずれかに記載の器具。

【請求項 8】

前記チューブは、(a) セルロース、(b) キトサン、(c) ポリ(乳酸)、(d) ポリ(グリコール酸)、(e) シリコン、ポリアミド、(f) ポリペプチド、(g) ポリオレフィンからなるグループから選択されたポリマーを含む
ことを特徴とする請求項 1 - 7 のいずれかに記載の器具。

【請求項 9】

前記チューブは、円筒形状である
ことを特徴とする請求項 1 - 8 のいずれかに記載の器具。

【請求項 10】

前記チューブは、前記コア要素が取り出される開口を有する
ことを特徴とする請求項 1 - 9 のいずれかに記載の器具。

【請求項 11】

前記剛性材料は、人体外では固体状態にあり、人体内に配置された時には液体状態になる
ことを特徴とする請求項 1 - 10 のいずれかに記載の器具。

【請求項 12】

前記活性薬剤は、
(a) チューブの外側表面
(b) チューブの内側表面
(c) チューブが入る穴の網目構造内
のいずれかの位置に配置され、
前記活性薬剤は、チューブと一体に形成された要素である
ことを特徴とする請求項 1 - 11 のいずれかに記載の器具。

【請求項 13】

前記保持機構は、体外に保持される要素を有する
ことを特徴とする請求項 1 - 12 のいずれかに記載の器具。

【請求項 14】

前記保持機構は、体内に保持される
ことを特徴とする請求項 1 - 12 のいずれかに記載の器具。

【請求項 15】

前記保持機構は、接着性材料を有する
ことを特徴とする請求項 1 - 14 のいずれかに記載の器具。

【請求項 16】

前記保持機構は、体内に配置されるリングを有する
ことを特徴とする請求項 1 - 15 のいずれかに記載の器具。

【請求項 17】

前記器具は、生物分解性である
ことを特徴とする請求項 1 - 16 のいずれかに記載の器具。